

### 3 地域の農業を担う多様な担い手の活躍の支援

○移住・定住対策と連携した移住就農の促進、新規就農者や女性農業者等に対するスキルアップ支援、戦略的な農業参入企業の誘致を行います。

○担い手への農地集積を加速化させるとともに、担い手の経営発展に向け、各ニーズに応じた基盤整備に取り組みます。

- ①新規就農者の確保・育成と担い手のスキルアップ支援
- ②企業等の農業参入の促進など意欲ある担い手の確保
- ③女性が活躍できる環境整備
- ④担い手の経営発展に向けた農地集積等の促進
- ⑤多様な担い手のニーズに対応した農地整備の推進



首都圏等での就農相談会



農業経営の6次産業化研修



女性農業者の経営企画力向上研修

### 4 地域の強みを生かした里山の振興

○里山振興ファンドによる生業づくり支援の拡充や、世界農業遺産認定のメリットを生かした地域の魅力発信に取り組むとともに、「石川型スローツーリズム」を推進します。

- ⑥多様な地域資源を活用した生業づくりの推進
- ⑦スローツーリズム等による人を呼び込む農村づくりの推進
- ⑧農村の多面的機能の発揮と安全・安心な地域づくりの推進



地元食材を使用した多様な料理



揚げ浜式製塩



輪島塗



ボラ待ち漁



農家民宿



輪島塗の器と郷土料理

〈石川型スローツーリズムのイメージ〉

○農家民宿を核に「食」をはじめとする里山里海の魅力を地域で一体的に提供

### 1 策定の方針

農業は、私たちの生存に必要な不可欠な食料を供給する、なくてはならない産業です。また、農村は、国土・自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承といった多面的な機能を有しています。このような農業・農村の健全な発展を図ることが、豊かで安定した県民生活を実現し、明日を支える子供たちに確かな県土を残す上での基本であることは言うまでもありません。

県では、平成18年に「いしかわの食と農業・農村ビジョン」を策定し、元気ないしかわ農業の実現に向け、体系的に各種施策に取り組んできました。この結果、食育・地産地消、農産物のブランド化、新規就農者の育成、環境保全型農業の推進等で一定の成果を得たところです。

しかしながら、本県農業の主力品目である米の価格の下落や、野菜・果物の価格低迷等により、農業者の経営は厳しさを増しているほか、農業者の高齢化や農業の担い手不足が進み、鳥獣被害の増加等も相まって、里山の荒廃が懸念される状況となっています。

こうした中、持続的に、県民・消費者へ安全・安心な県産農産物を供給するとともに、里山地域の有する豊かで多面的な機能を発揮していくためには、農業を魅力ある産業へと成長させることと併せ、農村を美しく活力ある地域として維持・発展させることが最大の課題です。

新たなビジョンでは、こうした状況を踏まえ、収益性の向上や多様な担い手の確保を進めて農業の成長産業化を促進するとともに（産業政策）、農業以外の多様な収入源を確保して農村地域の活性化を図り（地域政策）、これを車の両輪として、農業・農村の振興に向けた施策を展開いたします。

### 2 期間

新たなビジョンは、平成37年度を目標年度としていますが、社会情勢やビジョンの進捗状況を踏まえて見直しを行う観点から、5年後（平成32年度）を目途に進捗と成果を検証し、必要に応じ、ビジョンの内容を見直すこととします。

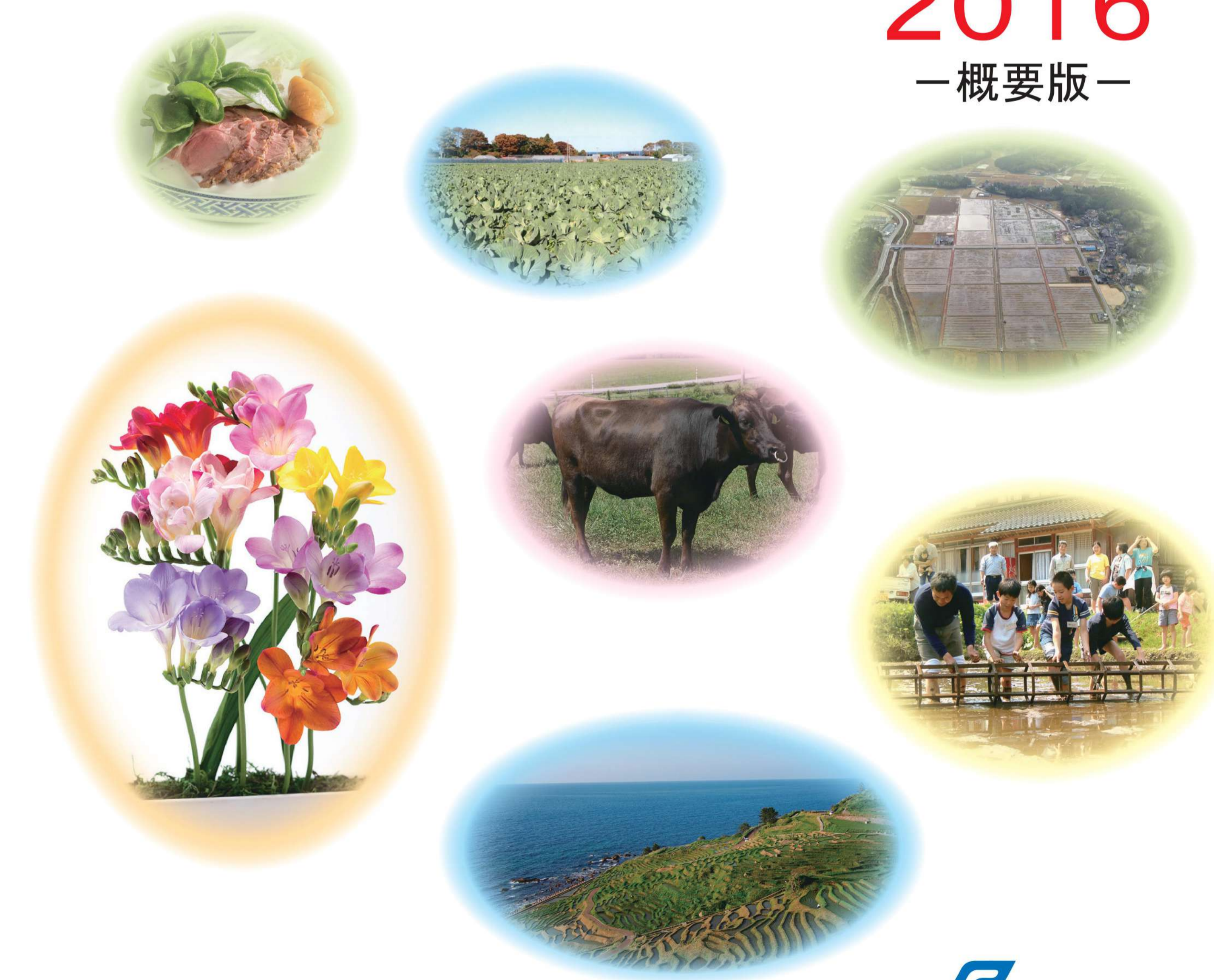
### 3 構成及び効果的推進にあたっての留意点

- ①新たなビジョンは、4つの「施策の柱」、18の「重点課題」で構成しており、重点課題毎にこれを実現するための各種施策を記載します。
- ②各種施策の達成状況等は、施策毎に行う行政評価により行うこととし、情勢の変化に応じて、適切に目標及び施策の見直しを行います。
- ③ビジョンに掲げた内容を確実に実現していくため、各農林総合事務所において、市町、JA等の関係機関・団体と連携し、地域における取組状況を検証します。

石川県農林水産部農業政策課  
〒920-8580 石川県金沢市鞍月1-1  
電話:076-225-1661・FAX:076-225-1618



# いしかわの 食と農業・農村ビジョン 2016 —概要版—



## 1 次世代に向けた他産業との連携による農業の収益性の向上

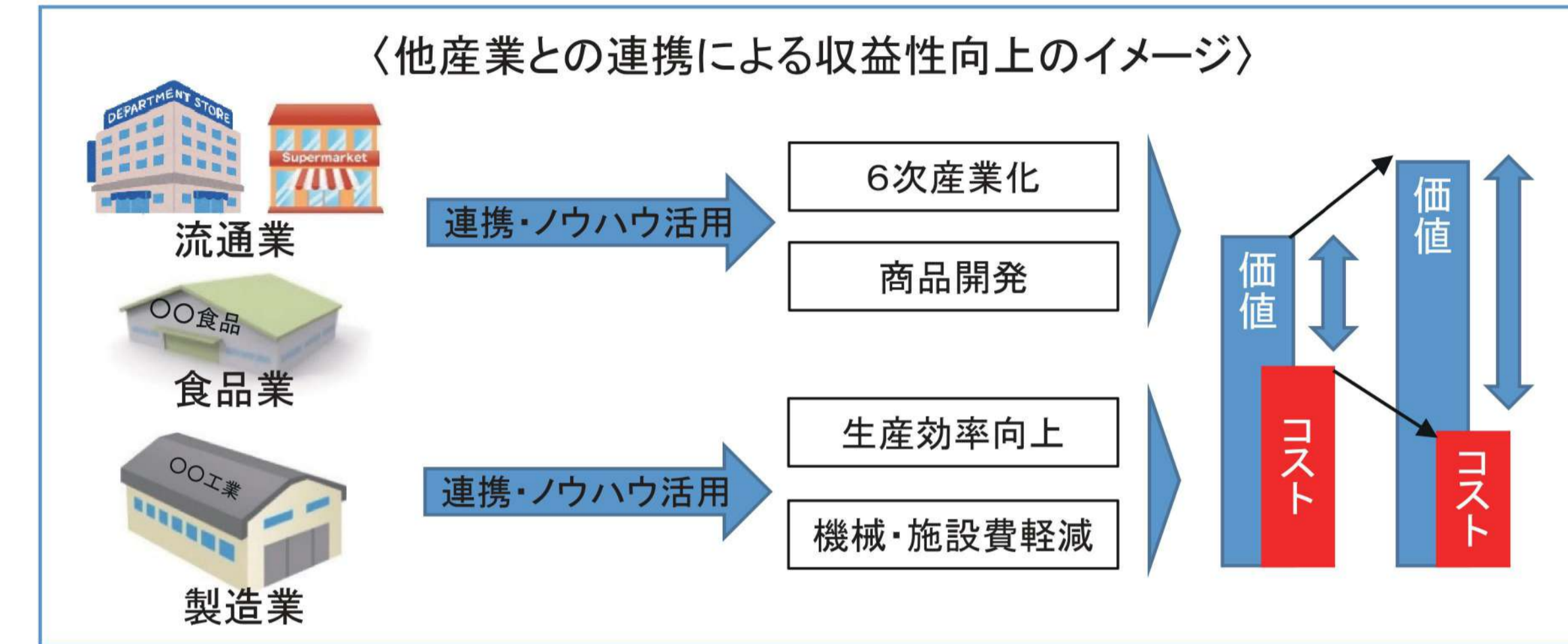
○「ものづくり産業の集積」という本県の強みを生かした新たな発想を導入します。

○長期的な視点に立った新品種や新技術を開発し収益性を向上させます。

- ①企業等の技術・ノウハウを生かした生産性向上の取組みの推進
- ②食品産業と連携した新商品開発等の6次産業化の推進
- ③気候変動に対応し得る新技術の開発と普及



多機能ブルドーザで  
耕起～播種まで作業



## 2 ニーズの変化に対応した生産・販路の拡大と海外展開

○水稲単作から野菜等との複合化・多角化への転換、消費者ニーズ等に対応した県農畜産物の安定生産・出荷、ブランド化による付加価値向上を推進します。

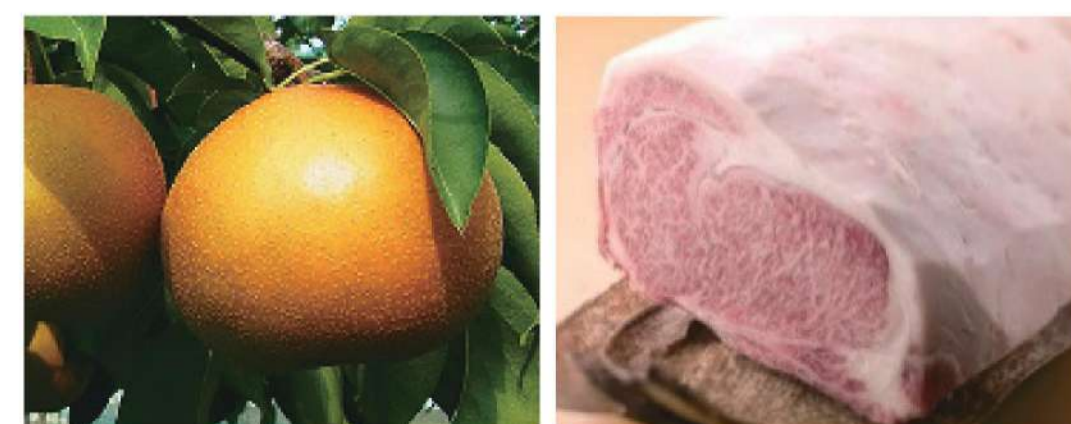
○首都圏等でのさらなる販路開拓、インバウンド消費も含めた輸出の取組みを進めます。

- ④農業を取り巻く情勢の変化に対応した複合化・多角化の推進
- ⑤需要者のニーズに対応した生産・販路の拡大
- ⑥特色ある農畜産物のより一層のブランド化の推進
- ⑦食文化の総合力を生かした県産食材の海外展開
- ⑧環境と調和した農業の推進
- ⑨幅広い食育と地産地消の推進
- ⑩県産食材への信頼を支える安全・安心の確保



〈水稲と園芸作物の複合化経営〉

左：水稲+ねぎ栽培、右：水稲育苗ハウスでのフリージア栽培



〈特色ある農畜産物のブランド化推進〉

左：なし新品種「加賀しずく」、右：能登牛

# 新たな「いしかわの食と農業・農村ビジョン」の概要

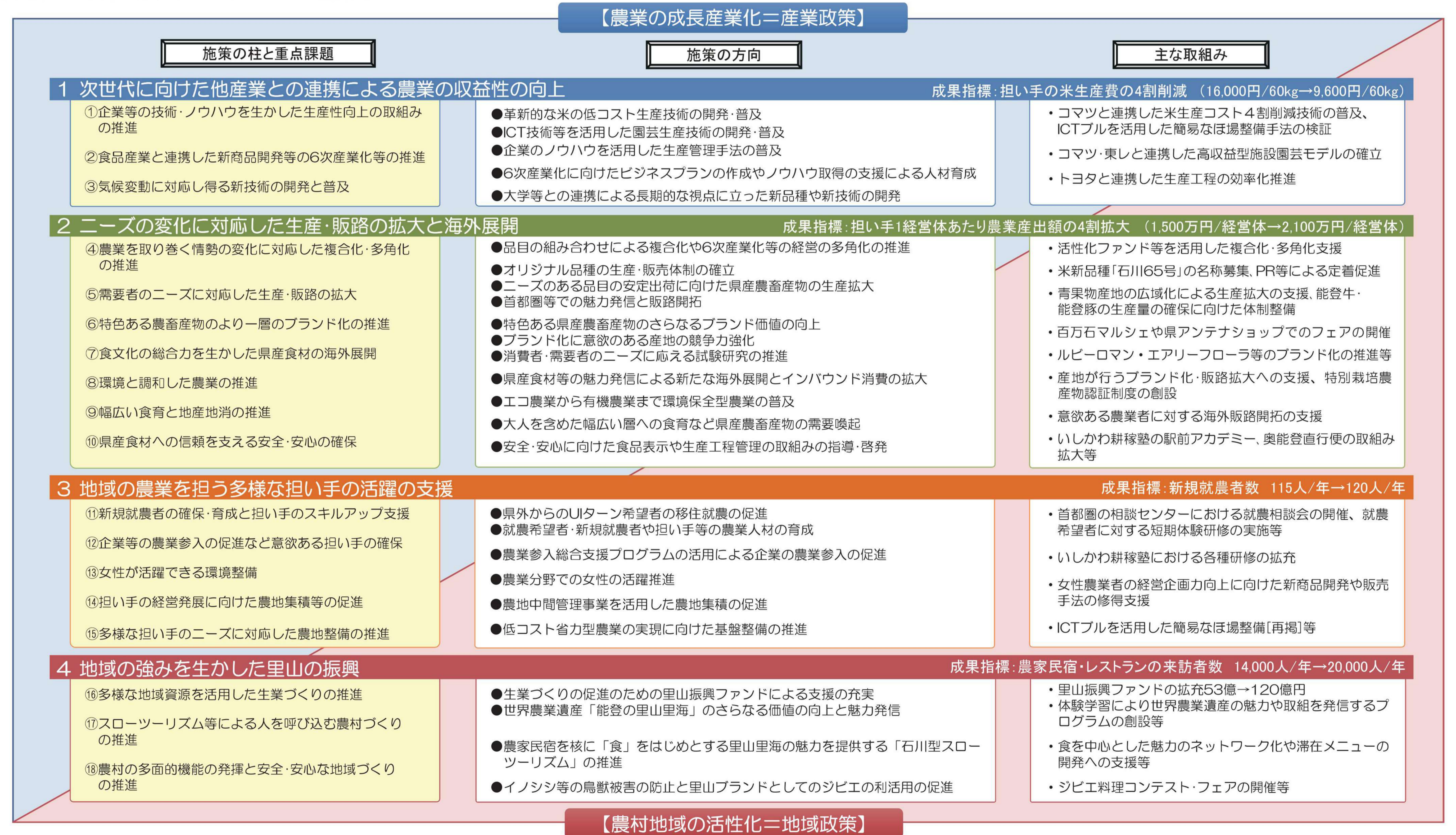
### ◇食と農業・農村を取り巻く環境

○農作物の価格低迷等により、農業者の経営は厳しさを増しているほか、農業者の高齢化や農業の担い手不足が進み、鳥獣被害の増加等も相まって、里山の荒廃が懸念される状況となってきた。

○北陸新幹線金沢開業や世界農業遺産の認定による観光客増加を受けて、県内の飲食店等では、特色ある県産農畜産物の取扱量が増えており、さらなる需要が期待される。

○企業、新規就農者等の多様な担い手が増加し、さらに、他産業と連携した生産性向上やコスト削減等の新たな取組みが進められている。

### ◇取り組むべき施策の体系（4つの柱と18の重点課題）



◇目標年度：平成37年度（10年後）とし、5年後を目途に見直しを検討